



小学校教育

会報教育北海道別冊

小学校教育

二〇二二年一月 第五十八号

北海道小学校長会



58

北海道小学校長会

2022.1



表紙のことは

「透き通る絶景 鮮やかな支笏湖ブルー」

石狩市立花川南小学校 吉田篤弘

千歳市は、道内でも数少ない人口増加を続け、平均年齢が道内一若い活気のある中核都市です。また、日本最北の不凍湖である支笏湖、世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産キウス周堤墓群をかかえる豊かな自然と太古の歴史を感じることできるまちでもあります。

写真の支笏湖は、標高1,000mを超える山々に囲まれ、水質のよさと透明度は有名で、湖面の美しい青色は「支笏湖ブルー」と呼ばれています。湖畔に立つと、緑と青のコントラストに心が洗われます。

この千歳市で2年ぶりの会同による研究大会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況から全体会はオンライン配信、分科会の研究発表は動画の限定公開及び誌上交流と工夫を凝らし、開催に至りました。ご理解ご支援いただいた全道の校長先生方、関係機関の皆様方に感謝申し上げます。

一堂に会することは今年度もできませんでしたが、未来社会の創造に挑戦する子どもたちを育む学校経

営への新たなステージに一步進み出すという大会の成果を発信することができました。

これからも一層予測困難な社会の状況が続くかもしれませんが、各校長先生方が、透明度の高い支笏湖のように未来を見据えて、大会の成果を各学校での実践につなげていただければ幸いです。



自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～ふるさとに誇りと愛着をもち

ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進～



新千歳空港



世界をつなぐ千歳から
未来を創る子どもたちの笑顔と希望を乗せ
新たなステージに歩み出そう！

第64回北海道小学校長会教育研究石狩・千歳大会

もくじ

大会特集

小学校教育

58

令和4年1月



大会会長挨拶	2
大会実行委員長挨拶	3
祝 辞	4
道教委講話	8
当面の諸課題	12
大会主題・研究課題 趣旨説明	21
記録写真	22
研究大会開催要項	24
分科会運営者一覧	25
第1分科会	26
第2分科会	30
第3分科会	34
第4分科会	38
第5分科会	42
第6分科会	46
第8分科会	50
第10分科会	54
第11分科会	58
第12分科会	62
第13分科会	66
研究のまとめ	70
記念講演	72
次期開催地挨拶	75
編集後記	76

大会会長挨拶

北海道小学校長会長

吉田 信 興



全道各地の皆様、おはようございます。

第64回北海道小学校長会教育研究石狩・千歳大会を476名の参加者を得て開催できますことを大変嬉しく思っております。参集型での大会とはなりませんでしたが、本日はオンラインを活用し、北海道内を結んで全体会を行います。全国連合小学校長会長 大字 弘一郎 様による当面の諸課題についてのご講話、北海道日本ハムファイターズ取締役事業統轄本部長 前沢 賢 様による記念講演。お二人から大いに学び、日々の学校経営に役立てたいと思います。例年ですと、北海道教育委員会からのご講話もございました。昨日行われた第3回理事研修会にて、中澤 美明 指導担当局長様よりご講話をしていただきました。その記録を研究大会の集録に収めさせていただくことになっております。

本日、全体会が終わりますと、誌上交流にて分科会を行います。昨年に引き続いての誌上交流です。ご感想、ご意見等をお寄せください。道小の研究大会では「分科会の充実こそ最大のおもてなし」を合言葉にその発展を目指し、ホームページの活用、グループ討議の工夫やアナライズカードの効果的な活用、討議内容の視覚化の工夫など、様々な取組を行ってまいりました。今回は動画で「趣旨説明」と「研究発表」を行います。大会要項をお読みいただき、配信する動画もご覧いただきながら、趣旨や発表の理解を深めていただくとともに地区の研究の特徴や発表者のお人なりも感じとっていただければ幸いです。

道小の研究は20地区の組織的な研究体制と数箇年周期の継続的・発展的な充実した研究内容によって支えられております。その発表の場が研究大会の分科会であり、毎年途切れることなく続いております。どの分科会の研究発表も理論と実践に裏付けられた素晴らしい内容です。ご自身の担当以外の分科会についても、大会要項をお読みいただき、様々な領域やテーマから研鑽を重ねていただければ幸いです。

現在、北海道は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令中です。各学校ではこれまでと変わらぬ対策を講じ、安全・安心な環境づくりに努め、今、

できることは何かを全教職員で模索しながら、前を向いて教育活動を進めておられることと思います。学習指導要領は全面実施2年目を迎え、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の定着が必須であります。併せて、中教審より答申のあった「令和の日本型学校教育」に求められる児童生徒の学びのスタイルは「個別最適な学び」と「協働的な学び」であります。個の思いや願い、個性を大切にしたい個の学びと、これまで以上に個に丁寧な評価・指導を行う教師の関わりによって、個の学びは充実します。そして、多様な考えをもつ仲間と協働的に学ぶことで、個の学びは最適なものになります。GIGAスクール構想の前倒しで急遽整備された一人一台端末を積極的に活用することでますます個の学びは最適なものになる可能性が高まります。コロナの状況は厳しいですが、一人一人の子どもの資質・能力を確かに育てること、そして中学校に送ることが、小学校に求められている大きな課題であると思います。この他にも学校における働き方改革や教員の質の向上といった教職員に関する課題、学力・体力向上、いじめや不登校等子どもに関する課題、ICTやスクールサポートスタッフ等の教育環境や人的環境の課題、教育課程の編成や危機管理などの学校経営上の課題など、私たち校長には常に心しておく課題があります。

この後のご講話、記念講演、そして分科会での研究発表が課題解決に向けての糸口になればと期待しております。

結びになりましたが、開催をお支えいただきました北海道教育委員会、千歳市、千歳市教育委員会、石狩管内教育委員会協議会、全国連合小学校長会、公益社団法人日本教育会の皆様に心より感謝申し上げます。

また大会を主管され管内校長会の総力でご準備をいただきました、鹿野 秀一 会長をはじめとした石狩管内小学校長会の皆様、小松 義幸 大会実行委員長、今村 敏之 大会実行委員会事務局長を中心に綿密な計画と準備をしていただいた大会実行委員の皆様、各分科会を支えていただいた皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

この後、全体会、誌上交流分科会と続きます。どうぞ皆様、よろしく願いいたします。

